

# 貿易転換効果のパラドックス

## 報告要旨

杏林大学 総合政策学部

西 孝

現在、世界にかくも多くの FTA が存在することを、それに伴う自由化のメリットだけで説明することはできない。本稿の主張は、貿易転換効果こそがその重要な説明要因である、というものである。

貿易転換効果は、多くの場合、FTA の締結に伴うネガティブな効果として論じられる。しかし、本稿では、とりわけ政府が生産者余剰のみを考慮して意志決定を行う場合、貿易転換効果の存在が FTA を促進する原動力となり得ることを、簡単な余剰分析を用いて例示する。静学的には「悪」である貿易転換効果が、動学的時間経路においては「善」となるというパラドックスが生じる。

これは「地域主義のドミノ理論」の中核をなす考えであるが、それにも関わらず、その重要性が十分に評価されているとは言えない。このメカニズムの本質を初等的な分析道具で例示することで、「貿易創造効果と貿易転換効果のどちらが支配的か」といった、一面的な FTA の評価基準の見直しを定義する。

(JEL Classification Numbers: F15)

キーワード: FTA、貿易転換効果、ドミノ理論